

教育改革アリーナ No. 3

1. 全学 FD 研究会のご報告

10月25日に本学初となる全教員による1日行事の「全学FD研究会」が開催されました。出席状況は最終的に約200名のご参加をいただくことができました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

午前中は、三浦から本学の質保証の状況と平成33年に受審する機関別認証評価の内容について説明しました。次に、文部科学省高等教育局大学振興課大学改革推進室の平野博紀室長から、今日の大学のあり様や今後の姿、3ポリシーに即した質保証の重要性等について、具体的に話を伺うことができました。

午後は、前半が各学類に分かれコースごとに、後半は基盤教育の分野ごとにプログラムレビューのための枠組みを話し合ってくださいました。当日ご参加いただけなかった先生方には、以下の代替説明会にご出席いただきたいと思っておりますので、何卒よろしくお願いいたします。

午前講話欠席の先生向け、代替説明会日程について

日程：11月14日(水) 12:20～13:15

場所：S28教室（教務課前）

ご都合が悪い場合は、折り返し事務担当までお知らせください。

午後の学類、基盤教育のプログラムレビュー欠席の先生方

代替説明会ではなく、各プログラムごとに作成された、レビューシートをお送りし、その内容にご意見をいただくこととします。

ご自分が希望されるプログラム（学類各コース、基盤教育のスタートアップセミナーなど）を事務担当までお知らせください。

レビューシートの内容に対するご意見を、別添に記載の世話人の先生へご連絡ください（11月中）。

2. 国立大学教養教育実施組織会議の報告

■ 平成30年度（第55回）国立大学教養教育実施組織会議（H31.6.7-8 高崎市）報告

第1分科会「共通教育における初修外国語科目（第二外国語）について

（経済経営学類 手代木有児）

大学改革が進行する中で、第二外国語を必修とする学部が減少し、また第二外国語教員の退職に合わせて同ポストが削減されるなど、授業アンケートからは学生の意欲の高さがうかがえる一方で、第二外国語の学習を保證することが多くの国立大学で困難になっていることが、あきらかになった分科会でした。

第2分科会「高学年次生や大学院生に対する教養教育の重要性について」

(人間発達文化学類 小野原雅夫)

各大学で、高年次教養教育や修士課程教養教育の必要性が議論され、様々な取り組みが始まっていることが報告されました。魅力的な授業も多く、担当者や受講生からの評価は高いものの、履修者数自体が伸びていかないという立ち枯れ問題が生じている場合が多いようです。それを克服するためのアイデアとして、例えば、4単位分程度高年次で履修することを課したり、教養教育のスタートを2年次からにしたり、初習外国語を3年次からにする等の取り組みも紹介されました。

第3分科会「理工系の専門性を核とした教養教育カリキュラムの設計について」

(共生システム理工学類 高安徹)

外国人教員の専門分野を、英語で講義してもらうことにより、グローバル科目として位置付けている。また、教員間での差を無くすために、シラバスの統一だけでなく、試験問題も統一することにより、評価基準を一致させる工夫をしている。など、運営費の削減が進む中での実りのある教養教育のあり方について報告されました。